

2013 年度一般研究助成

いわゆる「脱法ハーブ」乱用者の実態、心理的社会的・精神医学的特徴、ならびにその治療法に関する包括的研究

研究代表者 松本 俊彦 (国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所)

➤ 研究の概要 (助成開始時)

本研究の目的は、精神科医療機関に受診した、いわゆる「脱法ハーブ」関連問題患者を対象として、その心理社会的および精神医学的特徴、ならびに臨床経過の検討を明らかにすることである。

本研究は以下の二つの下位研究により構成されている。一つは、「脱法ハーブ関連障害」患者に関するマクロ的視点からの検討である。この研究では、申請者が経年的に実施している、全国約 1600 あまりの有床精神科医療機関を対象とした郵送調査、「全国の精神科医療施設における薬物関連障害患者の実態に関する調査」のデータベースより、脱法ハーブ関連患者の情報を抽出し、経年的な患者数の推移、ならび患者の呈する心理社会的特徴、精神神経症状について検討する。

もう一つは、ミクロ的視点からの検討である。この研究では、研究代表者が主催する薬物依存症外来に受診したすべての脱法ハーブ関連障害患者を対象として、脱法ハーブの使用動機や入手経路、家族背景、生活史上の特記事項、横断的および縦断的な臨床像を明らかにする。さらに、対象となった脱法ハーブ乱用・依存患者のうち同意が得られた者を、すでに申請者が開発した、覚せい剤依存症に対する外来集団認知行動療法プログラムに参加させ、その治療効果に関する検討を行う。

➤ 選考委員会からのコメント

「脱法ハーブ」関連問題者に関する実態、その心理社会的特徴などは明らかにされていない。本研究の成果は、「再乱用防止プログラム」の開発に繋がるものであり、成果が期待される。